

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

授業態度、提出物等も多少考慮したが、ほぼ最終テストの成績で評価した。必修の授業であるので、最終テストの点数が60点に満たない者に関しては、追試を行い、追試の成績は優秀であったものの、60点で合格とした。授業を聞き、これまでの小テストをしっかり勉強をすれば高得点を取れる問題であるため、S評価が続出した。

授業への参加の度合いと発表内容を主として総合的に評価した。

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験の得点はそのままの点数を、追試験受験者に対しては、 $(\text{追試験の得点} - 60\text{点}) \div 4$ を60点に加えた点数を、成績として報告した。

- ・いずれの科目も実習科目であり、第一に授業への出席状況を重視し、実習時の参加態度および課題レポート等を総合的に評価しました。
- ・救急処置の技術の修得に関しては、実技テストで評価をしました。
- ・臨床実習Ⅱに関しては、実習記録等の記述内容から評価をしました。

出席回数、授業中の態度、レポートの取り組み方から平生点を算出した。また、3回のレポートを採点した。

授業に臨む姿勢とテスト結果は通じるものがあったように思います。  
授業態度や製作物、レポートとテストから総合的に判断しました。

授業中に学生が執筆した課題の評価、単位認定課題の評価によって学業成績を出しました。成績評価を省察すると、80点以上の学生が9割を占めており、講義で設定した授業目標にほとんどの学生が到達したと考えています。

試験やレポートを実施している科目は採点をそのまま素点として評価している。実習科目などは条件を満たせばS、欠席や提出物の不備に応じて減点する。

- ・学生自身が講義を通して何を学んだか(レポートから)
- ・それについての自己評価
- ・講義への参加姿勢、発言内容
- ・出席日数

データに基づいて、統計処理を行い、その結果についてレポートを作成させるという「最終レポート」に、出席状況を加味して総合的に評価した。

講義科目は、毎回出席を取り、それを成績に加味したが、基本的には期末試験による評価を重視した。なお、試験問題は、主に授業で話した内容を中心に出题しているため、出席は多寡はあまり考慮していない(出席だけで、内容を理解していない者に単位を与えるつもりはない)。成績評価は厳密であり、毎年「不可」とする学生も複数いる。ただし、1回の試験だけではなく再試験を行い、その間に自主学習のチャンスは十分与えている。

実習科目は、出席と毎回提出させるレポートの内容を評価と対象とするが、授業のまとめである最終レポートにも一定のウエイトを置いて、評価に加えている。

科目の性質上、アウトカム評価が難しく、実質的には学生の「努力」を評価せざるを得ない面がある。

シラバスに記載した目標が達成しているかを、やはりシラバスに記載した評価の基準・方法に従って一度7段階に分けて評価し、その後もう一人の担当の先生とご相談しながら貴校の成績評価提出の様式に合わせて点数化しました。

出席状況・授業態度・定期試験(筆記試験)により総合的に評価した。

授業内の取り組みと定期試験結果から総合的に評価しました。授業内は、学生がそれぞれ積極的にグループワークに参加していましたし、試験では、教科書や資料の持ち込み不可の試験であっても学生はおおむね高得点を得ていました。なお、試験では、知識の定着だけでなく、授業で得た知識を現場でどのように活かすか等について各自で理解を深めたこともうかがえました。

講義内でのワークに対する積極性、活動に対する振り返りの内容を踏まえて評価を行いました。

活動や講義への積極性や、グループワークの際の貢献を基に評価しました。

講義内のグループワークへの貢献や、発言の積極性、最終課題の得点を総合して評価しました。

- 1 授業中の態度や発言状況等
- 2 授業担当者としての取り組み、意欲、当日の授業状況等
- 3 課題レポートおよび当日の授業に関する感想、意見、気づき等のミニレポート

演習の授業であるため、出席状況を重視して成績を評価しました。

最終時に実施した試験の点数と、ショートレポートによる「学びの意欲」と「自分自身の意見を伝えようとする意思」を3ランクで評価し、合算した。

評価は、数回のレポートでおこなうものと、知識を問う筆記試験型のものとの、講義の内容に応じて使い分けている。それに加え、出席や授業中の発言などを加味している。レポート課題については、単にインターネットで検索した辞書的な回答をするのではなく、自分の考えを論理的にまとめているものには高得点を配した。レポートの書式が整っていないもの(表紙がない・短すぎる・引用が不適切)は大きく減点している。

社会教育の実践的諸課題について追及するとともに、実践的力量的形成をめざした。したがって、評価の基準は、①実践を通じた問題(課題)の発見力、②実践的スキル・知識に関わる学び についてどの程度かを実践報告会における発表から評価した。

- 1 レポート課題の記述から養護教諭の職務・役割の知識や特性を理解しているか。養護教諭になる意欲があるか。レポートの提出率。
- 2 発表時の参加度、態度・協働姿勢、積極性。
- 3 討論等への参加度。
- 4 出席数。